

ぽーれぽーれ(Pole pole)
スワヒリ語で
「ゆっくり…」
という意味です

ぽれぽれレター

第32号
2017.05.08

医療コラム あなたの血管年齢はいくつ？

理念

「人とよりそう ひらかれた病院」

病院基本方針

※安心・安全ながん医療を提供します
※医療提携を進め、地域医療に貢献します
※豊かな人間性を持った医療人の育成に努めます

診療案内

内科 外科 脳神経外科
整形外科 耳鼻咽喉科
婦人科 泌尿器科 放射線科
消化器科 緩和ケア科
乳腺外科 腫瘍外科 腫瘍内科

【診療受付時間】

平日 午前8:30～午後4:00

土曜 午前8:30～正午

【診療時間】

平日 午前9:00～午後4:00

土曜 午前9:00～正午

【外来の休診日】

日曜・祝日・年末年始

【お見舞い時間】

正午～午後8:00

現在、日本人の2人に1人ががんに罹り、3人に1人ががんで死亡しています。がんはとても厄介な病気であることには間違いありませんが、日本人の4人に1人が動脈硬化による心臓や脳の病気で亡くなっているのをご存知でしょうか。

動脈は、心臓から送り出される血液を全身に運ぶ血管です。酸素や栄養素を運ぶ重要な役割を持っており、通常は弾力性がありしなやかですが、加齢や様々な危険因子によって厚く硬くなってしまいます。動脈硬化とは、動脈の血管が硬くなって弾力性が失われた状態です。動脈硬化が進むと内腔にプラークがついたり血栓が生じたりして、血管が詰まりやすくなります。

動脈硬化にはいくつかの種類があります。大動脈など比較的太い動脈に粥腫（じゅくじゅ）ができるのが、粥状動脈硬化（アテローム動脈硬化）です。動脈の内腔に血液中の悪玉コレステロール（LDLコレステロール）などが沈着してドロドロの粥状物質（プラーク）となり、血管が狭くなって狭心症などが起こります。さらに、柔らかいプラークが破綻してそこに血栓ができると血管が詰まってしまって心臓に負担がかかるため、心筋梗塞や脳梗塞などを引き起こします。また主に脳や腎臓の中の細い動脈が硬化してしまうことを細動脈硬化と呼びます。加齢や高血圧が原因で起こり、進行すると血管が破裂して脳出血に至る恐れがあります。その他、動脈の中膜にカルシウムがたまって硬くなる中膜硬化（メンケルベルグ型硬化）があります。

動脈硬化は、喫煙・コレステロール・高血圧・肥満・運動不足などの危険因子が重なることによって発症しやすくなります。

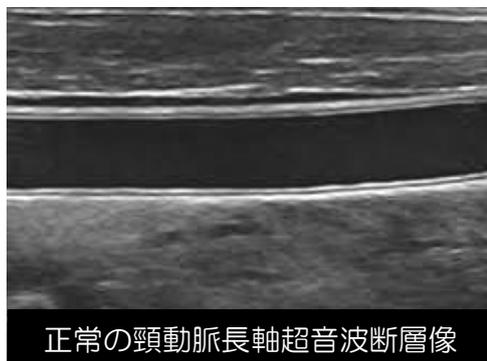
近年、MRI診断装置、超音波診断装置の向上と、血圧脈波検査装置（CAVI検査：Cardio Ankle Vascular Index）の普及により、無侵襲（痛みのない）で体の外から動脈の状態を把握することもできます。また、LDLコレステロールの中でも動脈硬化と深い関係があるとされる、変性（酸化）LDLコレステロールなどを測定、解析する事によって、脳梗塞、心筋梗塞発症リスクを評価するLOX-indexという最新の血液検査もあります。茨木市でも脳ドックの助成を行っていますので、皆様もこの機会に脳ドックを受けられてはどうでしょうか？危険なサインが見つかるやもしれません。

（臨床検査部 深澤）

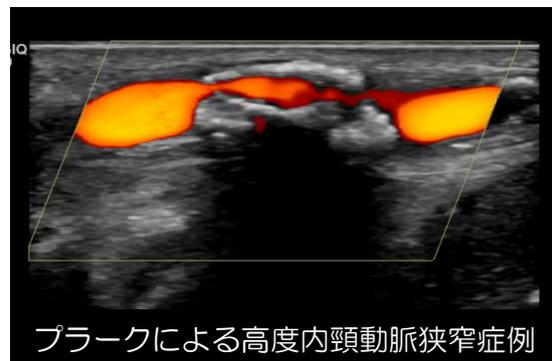
院内の あんなとこ、こんなとこ



燦爛と日差しが降り注ぐ地下1階の吹き抜け。ホールにはベンジャミン。壁には生命の木が皆さんの心を癒してくれます。



正常の頸動脈長軸超音波断層像



プラークによる高度内頸動脈狭窄症例



新入職員紹介



2017年4月、17名の新入職員（看護師14名・放射線技師1名・歯科医師1名・保育士1名）が加わりました。新メンバーを加えると、医師15名、歯科医師1名、看護師121名、薬剤師6名、診療放射線技師13名、臨床検査技師4名、理学療法士3名・言語聴覚士1名、作業療法士1名、臨床心理士1名、管理栄養師3名、歯科衛生士1名、看護助手19名、クラーク11名、SE1名、診療情報管理士2名、医事課8名、総務5名、地域医療連携3名、秘書1名、保育士10名、総勢275名となります。その他、外来診療については約30名の非常勤の先生方にご協力を頂いています。

新連載

図書紹介

『夜と霧』新版 V・E・フランクフル

緩和ケア科 若山宏

精神医学者フランクフルのナチ強制収容所での体験と生還を描いた20世紀を代表する作品です。世界では一千万部、日本では旧版、新版合わせて百万部に達しています。地上の地獄の内で変わらない人間愛を描いていますが、妻、両親、兄は帰ってきませんでした。残虐なことをしているのも我々と同じ人間です。自分達も条件が変わればいつ、強制収容所の側にもおかしくないと思って読むべきでしょう。

『夜と霧』からの抜粋

〔ナチの強制収容所で、ガス室行きかもしれない、病人収容所行きの移送団に医師として志願したわたしに、友人のオットーが話しかけてきた。〕
「ほんとうに行くのか？」
「ああ、行くよ」
友人の目に涙が浮かんだ。わたしは言葉をつくして慰めた。だが、なにはともあれわたしにはすることがあった。遺言の口述だ・・・。

「いいか、オットー、もしもわたしが家に、妻のもとにもどらなかったら、そして君が私の妻と再会したら・・・伝えてくれないか。よく聞いてくれ。まず、わたしたちは来る日も来る日も、いつも妻のことを話していたということ。な、そうだったよな？つぎに、わたしがこんなに愛したのは妻だけだということ。三番目に、夫婦でいたのは短いあいだだったが、その幸せは、今ここで味わわねばならなかったことすべてを補ってありあまるということ・・・」
オットー、君は今どこにいる。まだ生きているのか。いっしょに過ごしたあの最後の時から、君にはいったいどんな運命がふりかかったのだ。奥さんとは再会できたか。そして君はまだ憶えているだろうか、あのときわたしが、子供のように泣きじゃくる君に、わたしの遺言を一語一語、無理やり暗記させたことを。



編集後記：いつまで続くのかと思った三寒四温。それもつかの間、最近Tシャツで過ごせそうな陽気。厳しい夏の予感が・・・皆さん体調管理は万全に。(福西)

発行者：中村仁信（病院長） 〒567-0085 茨木市彩都あさぎ7丁目2番18号
編集長：福西康修（放射） TEL072 (641) 6898 Fax072 (641) 6097
編集委員：村井祐子（医師）岩切昭夫（看護）常島啓司（情報）林綾子（看護）
志田原直子（医事課）春名雅裕（リハビリ）松尾真奈美（放射）

<http://www.saito-yukoukai-hp.jp/index.htm>
「ほれほれ」はホームページからダウンロードできます！